風の松原

一、21世紀に残したい日本の自然100選
一、21世紀に引き継ぎたい日本の名松100選
一、森林浴の森日本100選
一、21世紀に引き継ぎたい白砂青松100選

風の松原だより

風の松原を育てる市民の会
会長　畠　昭男
能代市上町能代ビル2F
電話(0185)52－3456
印刷
株式会社 北羽新報社
能代市西通町3番2号
TEL (0185) 54—3150代

松原の緑を後世に

市民の会 総会　露伴翁の記念碑も

「風の松原」を守るため、私達は今何をすればよいのか。昨年初秋、再発足した風の松原を育てる能代市民の会（畠昭男会長、個人会員八十人）の新年度総会は、七月初旬開会。緑を守り、住み良い能代を後世に伝えるため、約二時間にわたって熱っぽく話し合った。その結果、松原の緑を守るため、今、何をすべきかーという原点に立ち返り、まず、昔の松原がどう変わったのか、だれ（先人）が、どの地域へ植栽したのかーといった点をはっきりさせ、その上で、貴重な松原を現状のまま、後世へ引き渡すために微力を尽すことを誓い合った。

新年度総会は、七月六日夜、勤労総合福祉センター（サンウッド）会議室で開かれた。

まず畠会長が、統一地方選挙などのため、総会の開催が遅れたことを説明、あいさつした。続いて木口事務局長が、会務と会計報告（四面掲載）を行ない、いずれも報告通り承認された。このあと、新年度の事業計画案が提案され、木口事務局長が提案理由を説明した。

同案は、総会前の役員会で、慎重審議の上、決まった事務局案。①先人の植栽地をはっきりさせる②クリーンアップ作戦の実施③ゴミ類の持ち帰りの標語、ポスターの募集④文豪・幸田露伴の来能記念碑の建立⑤下刈り地区の再下刈り⑥会報第2号の発行ーの六項目。

総会では項目別に審議した結果、いずれも事務局案通りに承認、可決された。

事務局案の説明によると、先人の植栽地の"源泉"については、例えば、賀藤景林の植栽地はどこかーといったように、先人と植栽地をはっきりさせようーというのが狙い。古内龍天能代高校教諭の指導や古文書などによって、できるだけ明確にしたい、としている。

ゴミ類の持ち帰り運動の一つとして、小、中学生を対象に、標語とポスターを募集。社会道徳心の向上をはかるもので、本会が主催し、北羽新報社が全面的に後援することになった。募集は夏休み期間中とし、審査の結果、優秀作品には、風の松原賞など各賞を贈る。

幸田露伴来能記念碑の建立は、露伴が来能の際、風の松原の印象を紀行文に書いてあるのを記念し、同松原の高台の一角に、記念碑を建立したいというもの。これは、本会が提唱もとなり、各種団体に働きかけ、約三年計画でーというもの。

本会独自の、松原内のクリーンアップ作戦は、春の統一クリーンアップデーとのかねあいもあり、秋までに、松原内の現状を見た上で、実施するかどうかを決めるーことになった。

樹齢150年、涼風が流れる風の松原の中心地帯
（市営陸上競技場本部前）

熱心に討議した新年度総会

松原は市民の誇り

管理の在り方見直そう

能代商工会議所会頭　浜野義雄

海側の砂丘の斜面には、ヨシズなどの風除けを造り、黒松の苗木を植え育てている光景が未だに脳裏に浮んでくる。

あれから八〇年、涼風漂う見事な青松の大樹林に生長した。

今日、広大な風の松原は、日本三大松原に比らべて、その規模において遜かに優れている。貴重な財産を私達市民は享有していることの誇りと幸せを感ずる。

風の松原の果たす機能は、飛砂と飛い、砂防林に徹した賀藤景林や先駆者達の計り知れない労苦を思び、この遺産の貴重さを認識し、偉大な先人を後世に守り育てて行かねばならない。

風の松原の果たす機能は計り知れない、六万市民の生活の安定、生命財産や耕地の保護、厳しい気象条件の緩和など、果たす機能は実に大きい。

最近、風の松原内には、野鳥、動物、植物の数も多くなった。将来、河畔公園の森が完成すると、これらの野鳥や動物が生息範囲を拡大するだろうと言われている。

私は下浜で生まれ、少年時代を能代山（現在の風の松原）を背負って育ったこともあって、とりわけ風の松原に対する愛着が深い。

当時、後合地に生育する松で、最も古いのは樹令七〇年くらいで、キノコ採りもできなかった。

その頃は広大な白砂の砂丘が連綿と聳え、大森の稲荷神社は砂丘の頂上にあった。

海側の砂丘の斜面には、ヨシズなどの風除けを造

飛躍へ確かな一歩

市民の会「指定集団」に

本会「風の松原を育てる能代市民の会」（畠昭男会長）は、七月十五日付で、社団法人「あすの秋田を創る生活運動協会」（橋岡貞龍会長）から、「生活会議運動指定集団」として指定され、同協会の一員となった。

活力ある地域社会の創造と地域の快適環境の創造ー問題と取り組み、新しいふるさと秋田の創造を目指している同協会は、このほか、県内五つの団体を「生活会議」運動指定集団として指定したが、本会も指定申請が受理され、正式に協会の一員となった。

今後、指定集団の一員として、各集団との間で情報交換、親睦交流に参加、大いに視野を広め、同協会の目指す、明るいむらまち創りに積極的に参加、仲間の集団を通じて「風の松原を育てる」、私達の運動をも広めたいものである。

なお、平成三年度全県むらまちづくり（生活会議）運動研究集会が、八月三十一日から二日間、能代市落合の、のしろ温泉国民年金保養センターで開かれる。参加対象は、社年集団会員、生活会議指定集団、市町村担当職員など約二百人。内容は①社年集団②農業③高齢化社会④生活会議ーの四分科会。各分科会ごとに問題点を討議する。

"観光汚染"なくそう

標語、ポスターを募集

能代海岸近くに点在する「風の松原」「はまなす画廊」「能代火力」「木の学校」「広域交流センター」は、新観光ルートとして、脚光を浴び、年々訪れる人が多くなっている。しかし、これらの施設の周辺では、捨てられたゴミ類や空き缶などの"観光汚染"が問題となっている。

「風の松原を育てる能代市民の会」は、北羽新報社並び各種団体の御後援を得て、これら観光ルートから、ゴミ類の持ち帰り運動を展開することになり、その手初めとして、能代市内の小、中学生を対象に、標語、ポスターを募集することになった。

◇　◇

【募集要項】

◇推薦観光ルートからのゴミ、空き缶などの持ち帰りの、標語、ポスター。

◇対象、能代市内の小、中学生。

◇応募方法　標語は、ハガキ一枚に一点。ポスターは学習サイズ。

作品には、名前、住所、学校名と学年。電話番号を明記のこと。作品は未発表のもの、入賞作品の著作権は主催者団体へ帰属、応募作品は返却しません。

◇賞、賞品　風の松原・市民の会賞、北羽新報社賞、その他各協力団体賞。

◇応募期間　八月十五日ー九月十日まで。

◇応募先　能代市上町、能代ビル二F、「風の松原市民の会」事務局まで。

◇入選発表　九月中旬、北羽新報紙上で。

入会歓迎

「風の松原を育てる市民の会」は広く個人、法人（事業所）会員を募集しております。

入会希望者は、ハガキに住所、名前、年齢、電話番号を明記の上、能代市上町六の六、「能代駅便局・私書箱九号」風の松原事務局宛、投函ください。会報を送付致します。会費千円（年間）は総会の際、頂きます。

原稿募集

市民の会では、会報に掲載する原稿を募集しております。

内容は、風の松原に関することならなんでも。

投稿は能代郵便局私書箱2号「風の松原」事務局へ。

「風の松原」

●基本方針

後谷地国有林は、能代市民にとっては先人から受け継いできた大きな遺産であり、次代へ引き継いでいかなければならない貴重な財産である。

当該国有林は、保健保安のほか飛砂防備、防風、防火などの機能を有しており、鳥獣保護区域にもなっている。

整備にあたっては、これらを十分認識したうえで、国有林のもつ機能を損わない範囲におけるものとし、ありのままの自然を有効に活用することを第一義に、森林や緑に対する理解とふれあいを得られるレクリエーションの森として利用、活用をするための整備を行うものとする。

●整備区域

能代海岸の砂防林は、日本海に沿って南は市内浅内から北は市内落合まで約14km、その面積約760haの松林で、そのうち国有林は米代川を境に後谷地地内302.1ha、落合大開地内40.5haの2ヶ所342.6haで残りは民有林である。

緑の樹海は、すべてクロマツ林で、その数700万本といわれている。

本計画による整備対象とした個所は、市街地のすぐ西側にある後谷地国有林の保健保安林指定地内、延長3km、幅員1km、約300万本の松が整然と並び、樹齢100年を超す大樹もある242.3haとする。

先駆者たちに光を
歴史の陰に民間の功績

古内龍夫さん

なく、ただ自然の遺産を満喫できる行楽の場といった親しみの方が強いのでなかろうか。

しかし、そもそもこの松原は藩制期に飛砂の被害から町を守る砂防林として成立した。今の能代公園から日和山下にかけての一帯は、正徳元年(一七一一)から越後屋渡辺太郎右衛門が自費で砂止め普請を行い、以後代々の太郎右衛門が継続して普請を行っている。また公園から南方、工業高校や一小の辺一帯は正徳三年(一七一三)から、越前屋村井久右衛門が自費で砂止めの普請を始め、その後享のころ(一七四四～四八)に、木山方役人の白坂新九郎や鈴木助七郎が手がけ、文政四年(一八二一)から貫藤景林が木山方の後任者として開発され、今はその面影もない。

飛砂の被害は「毎年秋より翌春まで西風烈敷飛砂仕、清助町鍛冶町柳町畑町年(一八三八)までにこの二人で植えた松は三十万本に及んだと言う。

砂防林として藩制期に成立

(風の松原)、大変いい名前である。能代の風は激しく荒れる風風と言う印象が強い。だが、この新しい名称は、ロマンチックな感じさえ与えて、恵みの風という響きを持っている。

その松原は、既に三百年近くの歴史を持っているが、今の松原はほとんどが昭和に入ってからの生育で、わずかに一中後方から日和山辺りにかけて、藩制時からのものが残っているだろうか。だからちょっと見ただけでは歴史を感ずる、と言ったほどのものもない。

世代超え続く強風との闘い

さらに、今の元町、樽子山、東町や栄町辺りから西の方、大森神社を結ぶ一帯は正徳三年から渡辺、村井の両人が共同で砂止め普請をしている。そのためにこの両人に屋敷地が与えられている。それが元映画館のあった辺りでないかと思われるが、立林町ともいわれた。この辺に植えられた松などは、天保の飢饉の時に全部伐採して、薪として函館人に与えており、その跡地にまた両人で松を植えている。しかし、ここはその後住宅地として開発されて、今はその面影もない。

砂防林の先駆者は渡辺太郎右衛門、村井久右衛門の両人であると言わねばならない。しかし砂防林というよりすぐ出てくる人物が貫藤景林であり、栗田定之丞である。この両人の功績も認めねばならないが、しかしこの両人は既に神社に祭られ、十分な顕彰を受けている。それに反して、景林や定之丞より以前に、自分の費用でこの町を守るために奮闘した太郎右衛門や久右衛門が、今一つ認めてもらえないのは何故だろうか。景林や定之丞だけが、功労者として喧伝されるのは少し偏りすぎてはいないだろうか。それは何か官尊民卑時代の遺風のようでもある。

砂地に相成り」という状況であった。その被害を止めるための作業は、丸太柱を立て、貫垣を設けて、町中から雑芥の類を集めて草の実や、ぐみ、柳、松などの苗を、二重三重の柴垣に埋めて、根付くのを待つというものであったが、その都度風に飛ばされて何度も何度も繰り返さねばならなかったという。そのような作業を渡辺太郎右衛門や村井久右衛門が、栗田定之丞や貫藤景林より数十年も前から、しかも子孫代々にわたって行ってきているのである。

功績めぐって評価に〝偏り〟

以上述べてきたように、砂防林の先駆者は渡辺太郎右衛門、村井久右衛門の両人であると言わねばならない。しかし砂防林というとすぐ出てくる人物が貫藤景

能代市教委が指定した賀藤景林が植栽した黒松。(淳三小西側入り口)

民間人の努力語り伝えよう

今はそんな時代ではない。太郎右衛門や久右衛門のような先駆者、子孫顕彰されてしかるべきだと思うのだがいかがであろうか。同じようなことが、長崎の袴田与五郎、川戸河の大塚益十郎、浅内の鹿田五右衛門、野呂田八郎右衛門等についてもいえる。この辺は定之丞が寛政九年(一七九七)から砂止め普請を行っているが、鹿田はそれ以前の宝暦年間から砂止めを行っているし、他のひとびとは定之丞の良き協力者であった。こうした民間の、自分達の村を、家を守らねばならないという熱意を正当に評価していきたいと思う。

とりあえず今の風の松原に関していえば、その基礎を築いた太郎右衛門、久右衛門の顕彰碑でも建立して広くその功績を讃え、語り継いでいきたいものと思う。

(能代高校教諭、能代市史編集委員長)

「其功を高しとす」
露伴も見た先人の偉業

佐藤浩嗣さん

明治の文豪・幸田露伴が私たち能代の〝風の松原〟周辺を通過したときの紀行文がある。露伴全集第十四巻〝遊行雑記〟にねざめられているその文は、当時の能代の松原の様子、先人の苦労を余すところなく伝えている。さらに一部抜粋し、みなさんと共に考えて見たいと思う。

「能代の市街(まち)を出づると直に、砂いと深き松林に入る。心無き人は空(あだ)に暮しも過ぐべし、知るものは知る能代の防風林は是なり。羽後の海に隈(のぞ)める地はおほよそは砂漠のみにして……

(中略)……むかしは風のすさまじく烈しくして、水の上はもとより陸の住居さえ安きを得ざりしなり。……(略)……其勢の猛きこと喉ふるに物も無きほどにして石礫じゃりを飛ばし土砂を推き、天を晦うし地を撼かし、行客を倒し民家を埋め……(略)……然るに加藤清右衛門といふものあり。……(略)……これを憂ふるの餘りに、海濱一帯数百町歩へ松を栽えて土砂の飛散を防ぎ込めんことを思い立ち、十一年の長き間松苗を栽うることを怠らず、終(ついに)に林を成すに至りしかば、烈しの強き風も然(さ)まで吹は飛れ立つことを得ずして、能代の町の民家も砂に埋もらるることも無く、道行く人馬も心安く過ぐるを得るに至りしものから、従って土地の栄えを増すに及びたりと云い傳ふ。……(略)……林は眼の前の此の林なりと思へば、砂の白きを踏むにつけ消の翠なるを看るにつけて、そぞろに其人を懐しみ其功(いさを)を高しとするの情に堪へず。……

(略)

先人の功を見事なまでの文体で表わしていると思いませんか。私はいつもこの文章の一部を碑文にして後世に残したいと考えているのですが、皆さんはいかがでしょうか。一体、露伴はどの辺を通ったのだろう。今残っているどこかの松を見ていったのだろうか。などと考えながら、石碑の位置等に夢を馳せている私です。(風の松原市民の会会計)

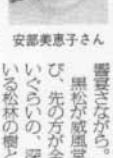
能代市内の中心街を飛砂から守った能代港近くの黒松地帯。1711年渡辺太郎右衛門親子が植栽した(左側が市の中心街)

松原の四季に大自然を満喫

余暇をみつけては、風の松原へ散歩に出かける。林道はよく整っていて老人や子供も難なく歩けるようになっている。だから、時には障害のある人とともに散策、自然の恵みを味わっぱい受けながら、大いに時を楽しむ。

何種類もの鳥のさえずりを聞き、樹木から発する新鮮な空気を吸いながら、緑の中を歩くのはとても気持ちのよいもので、時間も忘れてしまう。

もうひとつ楽しみがある。それは、四季折々の草花にお目にかかることができるからだ。特に初夏から秋にかけては最高で、私の心は弾んでしまう。あまどころ、つりがね草、みずひき草、かるかや、すすき、野菊、浜ぐみ、あけびなど…。それに、はまなすの鮮やかな紅色と甘い香り、夕暮時には映る群生地は、彩の饗宴さながら。


安部美恵子さん

黒松が威風堂々と立ち並び、先の方が今く見通せないぐらいの、深さを持っている松林の樹と樹の間に、ひっそりと静かに咲き誇る花々に私は語りかける。

先人達が、幾多の困難を乗り越えて、守り育ててきた松林は、自然の宝庫であり、私たち能代市民は、その恩恵を有難く受け、とでも感謝している。

例え時代は移り変わろうとも、この偉大な財産を大切に守り育て、後世へ伝えていかなければ…と思いながら、今朝もまた松風の音に耳を傾け歩いている。

(市社会福祉在宅相談員＝能代市追分町)

私と「風の松原」

潮風を切って自転車で快走

船山富雄さん

風の松原の中に、憩いの広場ができるまで、私達親子は、奏波里クムなど、他町村の行楽地へ出掛けたものだ。松原に憩いの広場やフィールドアスレチックが整備されてからは、時折、松原を利用し、いまでは松原一帯が、わが家の憩いの場となった。

今年、わが家では、小学一年の娘が、自転車に乗れるようになり、遠出もできるようになったため、東能代のわが家から、風の松原へサイクリングを楽しんでいる。

六月のある日曜日、娘と小学四年の長男と友達を連れて、風の松原へはまなすの画廊へと遠出を試みた。途中、整備不十分の道路もあったが、快い初夏の風を切り抜けるように走るサイクリングは、快適そのもの。林道わきで偶然見つけたハマナスの赤紫色は、今でも子供達と共通の話題であり、鮮やかな色彩は、今も目に焼きついている。それにもまして、初めて遠出のサイクリングできた満足感は忘れられない思い出。

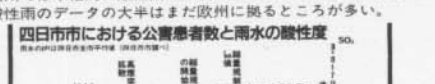
風の松原の利用の仕方については、議論のあるところ。はまなす画廊～港を結ぶ海岸コースは、市民の新しいサイクリングコースとして、最適。潮風を体いっぱいに受けて走る、松原～画廊コースは、能代市が他市に誇る親子サイクコースである。

(公務員＝能代市機織)

近付く〝大敵〟の足音
迫る酸性雨、松くい虫

日本一の黒松の美しさを詩る「風の松原」は、近年樹木の大敵「酸性雨」とマツクイムシの猛威に侵されかかっている。地元能代市では、貴重な遺産を守るため、日に日に深刻化する、これらの猛威を水際で防止するために懸命の努力を続けている。

欧州では本格的に酸性雨の試験調査が行われている。日本での酸性雨のデータの大半はまだ欧州に拠るところが多い。



＝学習研究社発行「今、緑が危ない」から同社提供。

拡大を続ける酸性雨の被害

樹木にとって、本来、雨は命の源であった。ところが、わが国でも、酸性の強い雨が降り出し、植物や樹木を枯らしているという。

その原因は、化石燃料、つまり石油や石炭を大量に燃やすためとされている。酸性雨は、特に日本海岸に多く、これは、中国大陸から偏西風によって運び込まれるためだという。

風の松原を抱える同市では、昭和五十八年から、市内六中学校の協力を得て酸性雨の簡易調査を実施しているが二年後、能代海岸に建設中の能代火力の運転開始が予定されていることもあり、さらに本格的調査が待たれている。

自然降雨は、PH5・6程度。それ以上を酸性雨と呼んでいる。酸性雨は化石燃料を燃やした際、工場の煙突などに含まれる硫黄酸化物や、自動車の排気ガスになどから出る窒素酸化物が主なるもの。

いまのところ、酸性雨の被害は欧米に多く、例えば、森林の破壊、湖沼での魚の死滅が大量に出ているという。インド、中国などアジア地域も被害は目立っている。わが国でも、全国的に降り出し、群馬県などで白樺の立ち枯れが出るなど深刻の度合は全国的に目に目に強くなっている。

実態の解明へ懸命なテスト

酸性雨の測定は、能代市の場合、市内六中学校に簡易雨水採取箱を設置、採取した雨水にPHによって色の変わる試験紙で測定してきた。ところが、現場で指導にあたる先生方から「変化する色が微妙なことから、測定の精度をもっと高めたい」と要望が出ていた。

これを受けて同市は、小型PH計を購入。六月初旬から六中学校の測定班が同一日に一斉調査を行うなど森林保護などのため、懸命なテストを続けている。

環境庁は、近年、全国的に降っている酸性雨の森林に与える影響を重視し、八月から三年がかりで、その実態を調査することになった。

わが国は、国土の約七割に当たる二十五万平方キロが森林。このため、酸性雨の被害が心配され出したことから、同庁では、本格的なな防止対策を立てることになった。

市内中学生によるPH試験紙による測定。

酸性物の降水（雪、霧、雨）によって壊滅的ダメージを受けた山林。死神が鎌を振り回して闊歩している。（アメリカ・ノースカロナイ州立公園内）

「緑のベスト」「空中鬼」酸性雨とは

酸性雨とは、一体何か。あらためて

緑が人間を傷つ

その恐ろしさは、1952年、ロンドンで4000人が死んだ事件が象徴する。いわゆるロンドン・スモッグ事件で、56年1月、57年12月にもおこり1000人以

＝学習研究社発行「今、緑が危ない」から、同社提供。

松くい虫防除に抜本策
松林保全対策懇

松林保全対策懇談会は七月三十一日、松くい虫の被害対策の検討結果を、小沢林野庁長官に答申した。それによると、今後は、松林を「保全する松林」と、被害が進み保全の価値のない「その他の松林」に区分し、「その他の松林」については、広葉樹への転換を計る。

松くい虫の被害は、昨年度は九十五万立方メートルで、ピークの四割に減っている。本年度の防除費用は、国費だけで四十五億円。自治体、私有林分を含めると百億円を超えるのは確実。

この結果、風の松原は、いまのところ被害もないとも「保全する松林」に指定されるのは確実であり、それだけに松くい虫防除には万全が望まれている。

めには、ある程度の松林減少はやむをえないという考え方。同庁は来年の通常国会へ特別措置法の改正案を出す方針。

〝運び屋〟見つかる
松くい虫侵入の恐れも

県山本農林事務所が、七月末現在でまとめたところによると、七月二七九日能代市浅内の私有林内に設置してあった誘引箱に、マツクイムシの運び屋・マダラカミキリが入っていた。これより、さき、同十五日には、二ツ井町でも発見されている。

浅内地区の私有林はいわば、風の松原の南端に当たり、今度のマダラカミキリの発見で、名勝・風の松原へマツクイムシ侵入一の警戒信号が出されたことになった。

運び屋カミキリが発見された誘引器（浅内地区の黒松林）

周辺部に既に被害！
水際作戦で侵入防止を

「風の松原」を松の天敵・マツクイムシから未然に防ごうーと、同市は七月上旬、同松原の隣接地、萩の台墓地公園一帯で防除のため薬剤散布を実施した。

マツクイムシ（マツノザイセンチュウ）は、媒介虫のマツノマダラカミキリが〝運び屋〟。

マツクイムシは、松から松へ移るマツノマダラカミキリの体内から、枯れた松の中で羽化する体長一ミリ未満の線虫。

能代市は懸命
営林局は静観

県内では、昭和五十七年に県南地方で、初めて被害が確認され、由利、雄勝両地方の十市町村が被害を受けている。県北では、昨年、「風の松原」の南北両地区に被害が出てきているわけで、油断できないところに追い込まれている。

今回の薬剤散布に先立って、県林務部は、六月上旬に、浅内地区で、カミキリの早期発見と防除対策講習会とを開き、カミキリ誘引器を取り付けるなど、被害防止のための水際作戦を実施し、万全を期している。

しかし、同松原は、能代営林署の管理下にあるため、同市では防除のための手がつけられないのが現状。マツクイムシが、同松原の隣接地区まで迫っている。ともあり、市の担当者の間では、営林当局のいわば〝静観中〟にいらだち

山本、八竜、両町と峰浜村で確認された。

「風の松原」の南北両地区に被害が出てきているわけで、油断できないところに追い込まれている。

今回の薬剤散布に先立って、県林務部は、六月上旬に、浅内地区で、カミキリの早期発見と防除対策講習会とを開き、カミキリ誘引器を取り付けるなど、被害防止のための水際作戦を実施し、万全を期している。

しかし、同松原は、能代営林署の管理下にあるため、同市では防除のための手がつけられないのが現状。マツクイムシが、同松原の隣接地区まで迫っている。ともあり、市の担当者の間では、営林当局のいわば〝静観中〟にいらだち

松の天敵、マツクイムシ防除のための薬剤散布作業。

樹が伝える生命の神秘

森林の〝効用〟について、作家の鳳山光三郎さんは、ある雑誌の中で、「森は生きている。樹々は、もう一つの目を持った生物体であり、知覚を持ち、嗅覚を持ち、会話をしている」ーと、書いている。そして「樹々には交信する高度があり人間の聴覚の域よりはるかに低音で人間の耳には聞こえない」ーとも。

毎日、朝夕、風の松原を歩いているさわやかな体験から言うと、森の中の最高気温は低く、最低気温が高い。このため、森林内の気象条件は快適。〝森の中は、樹々が直射日光を遮り、涼風環境をつくってくれるため、いつもさわやかである。

嵐山さんは「森林浴して気持ちがいいのは、人間の骨や筋肉、内臓といった肉体部分が、植物が発する音波に呼応するためで、肉体は樹々と交信してよみがえる」ーとも書いている。

何年か前に聞いた話だが、〝森の中は、木の葉というフィルターで、光線が和らぎ、適当な紫外線がいっぱい。この紫外線で、血圧や血糖値が下がり、またビタミンDが出来、感染に対する抵抗が増え、体力回復に非常に有効である〟ーということだ。

嵐山さんはまた「木には木霊がある。人間が森へ近づくと、約二・五キロの地点で樹々が交信、異物（人間）侵入を知らせ合う。このため、殺人犯が、死体を森の中に埋めても、必ず発見される。これは、樹々が見ていて、交信し合い、他者へ伝えるからだ」そして「公共施設、ビル建設の名目で、樹齢百年の名木、古木が、どんどん切られている。木は復讐する」ーとも。

こうしてみると、森の中には、われわれが想像もつかないものが、たくさん潜んでいるような気がしてならない。昔から〝神秘の森〟と呼ばれるのも、このためかもしれない。（木口）

松原の四季に心地よい汗

能代市民の憩いの森「風の松原」。海岸沿いに南北に約十四*。（幅約一*）、広さ約七百六十ha、約七百万本のクロマツの森は、四季おりおりの変化を見せる。能代市民は、春から秋にかけて、この森を舞台に、緑のシャワーを全身に浴びて、心地よい汗を流している……。

清掃作戦に二千人参加

「きれいな道・美しい川はあなたの心」―を統一スローガンに、四月十四日朝、能代市クリーンアップデーが、約三千人の市民が参加して実施され、トラック二十台分のゴミ類が拾い集められた。

このクリーンアップ作戦は、これまで、能代市、建設省能代工事事務所・米代川国道ノ内クリーンアップ実行委員会、風の松原を育てる市民の会などが、個々に実施してきた清掃作戦を初めて合同で実施したもの。今回は各団体がこれまで実施した区域を中心に実施することにしたため、風の松原市民の会では、能代一中、能代一小の生徒達の応援を得て、海岸寄りの松原と海岸道路わきの空き缶やゴミを中心に拾い集めた。この日は、好天に恵まれ、海上から吹きつける心地良い潮風と、林内のきれいな空気を吸いながら、ビニール袋いっぱいに拾い集めた。

なお、来年からは三団体の代表で実行委員会を組織、本格的に全市一斉に、クリーンアップデーを実施することになった。

この日、本会からは島昭男会長、木口事務局長が参加した。

左官組合も清掃に一役

能代左官技能組合（大山鉱一組合長）は、五月二十七日から十五人の組合員が参加して、風の松原のゴミ拾いを実施した。

同組合のクリーンアップ作戦は、組合員の親睦行事の一つ。例年、親睦交流ではお酒を飲み合うことが多かった。それが、昨年から「市民に役立つことをやろう」ということになり、能代公園のツツジまつりに合わせて、同公園と隣の松原の清掃を始めたもの。この日も作業服姿の組合員は、空き缶や紙くずなどを拾い集め、汗を流した。

双眼鏡手に野鳥観察会

能代市子ども会連合会の野鳥観察会が、五月十三日、風の松原で行われた。同松原はキジやクロツグミなど野鳥がいっぱい。この朝、子ども会親たち約三十人が双眼鏡を持参して参加。同松原の野鳥の森一帯で、先生方を講師に、バードウオッチング。さわやかな好天とあって、シジュウカラ、ヒヨドリ、ホウジロ、ウグイスなど三十余種の野鳥の美声に、子ども達は大喜び。同館では夏休みと初秋にも観察会を予定しており、市民の参加を歓迎している。

黒松林の中の憩いの広場は四季を通じてイベント広場に……。

広い松原に電動車イス

身障者でも、風の松原を自由に見て回れるように―と、能代市はこのほど、電動車イス一台を購入。同松原近くの能代勤労福祉センターに配置。身障者の利用が多く、好評だ。

同松原は早朝から夕方にかけて、多くの市民が憩いの場として利用している。しかし、広い松原のために見て回るにはかなりの距離。このため、同市は身障者にも林内を自由に見て回ってほしいと、一台二十五万円の車イスを配置したもの。

車イスは免許を必要としないばかりか、操作も簡単。しかし、広い松原の中心部を見て回るには二十分もあれば十分。このほか同センターには自転車も配置されており、五年生以上の子供達に二回二時間の範囲で無料貸し出しを行なっており、市民は、林内のサイクリングを楽しんでいる。

潮風が漂う林内では、早朝から夕方にかけて、思い思いの歩け歩け風景が散見される。

寒さ忘れて冬フェスタ

能代市制施行五十周年を記念した「風の松原・ふゆフェスティバル」は、二月三日、市営陸上競技場と風の松原一帯で行われた。

同市では、例年、商店青年クラブが主催して「子ども雪まつり」を催してきたが、今年は市制記念日の行事の一つとして、若い人達のグループの共催として行なった。

この日は、休日で、積雪も多く、絶好の条件。このため約三千人の市民が参加した。グラウンド内では、時速六*も出るため、同松原の中心部を見て回るには二十分もあれば十分。このほか同センターには自転車も配置されており、五年生以上の子供達に二回二時間の範囲で無料貸し出しを行なっており、市民は、林内のサイクリングを楽しんでいる。

積雪平均50センチの林内は、歩くスキーの格好のコース……。

歩けや松原七*コース

第19回能代市民歩け歩け大会が、六月二日朝、市営陸上競技場をスタート地点に、隣接の風の松原内のコースで行われた。

この日の参加者は、四歳の幼児から八十二歳のお年寄りまで、百二十人。まず全員が軽く体操して体をほぐしたのち、同競技場―風の松原―はまなす画廊―同松原憩いの広場までの約七*のコースを元気に歩いた。コースには初夏の涼風が吹き流れ、全員が快よい汗を流した。完歩した参加者には、主催側の市教委から完歩証のバッジが贈られた。

この日の歩け歩けサンデーには、風の松原・市民の会から木口事務局長らが参加し、起伏に富んだ松原コースの先導役をつとめた。

なお、来年は二十回目を迎えるため、記念大会として盛大に行うことになっている。

市民の熱心な清掃作戦。しかし、林内では依然としてゴミ捨てが後絶たず。

世界一の"松原街道"に

このような地域ごとに、生甲斐を求める意識が高まり、その活動が盛り上がり、創意と工夫が求められている。

いわゆる、創造、そが、活力を生み出すカギである。しかし、歴史や文化遺産、景勝地を有する地域では、それらを利用することにより、効果を上げているが、文化遺産に乏しい地域では、その代替資源の発掘開発に知恵を絞り、模索しているのが実体である。

能代市の海岸砂防林は、最近までは、キノコ取りの場として利用している。

しかし、広い松原のために見て回るにはかなりの距離。このため、同市は身障者にも林内を自由に見て回ってほしいと、一台二十五万円の車イスを配置したもの。

車イスは免許を必要としないばかりか、操作も簡単。

寒さ忘れて冬フェスタ

能代市制施行五十周年を記念した「風の松原・ふゆフェスティバル」は、二月三日、市営陸上競技場と風の松原一帯で行われた。

同市では、例年、商店青年クラブが主催して「子ども雪まつり」を催してきたが、今年は市制記念日の行事の一つとして、若い人達のグループの共催として行なった。

この日は、休日で、積雪も多く、絶好の条件。このため約三千人の市民が参加した。グラウンド内では、馬ソリ体験乗車、ジャンボパズル、みかん拾い、氷像コンクール、ジャズダンス、ふるさと踊り、ポンポコ踊りなど多彩。一方、風の松原では歩くスキーなどが行われ、参加者は、寒さも忘れ、大喜び。雪国の子供の元気なところを見せていた。

歩けや松原七*コース

第19回能代市民歩け歩け大会が、六月二日朝、市営陸上競技場をスタート地点に、隣接の風の松原内のコースで行われた。

この日の参加者は、四歳の幼児から八十二歳のお年寄りまで、百二十人。まず全員が軽く体操して体をほぐしたのち、同競技場―風の松原―はまなす画廊―同松原憩いの広場までの約七*のコースを元気に歩いた。コースには初夏の涼風が吹き流れ、全員が快よい汗を流した。完歩した参加者には、主催側の市教委から完歩証のバッジが贈られた。

この日の歩け歩けサンデーには、風の松原・市民の会から木口事務局長らが参加し、起伏に富んだ松原コースの先導役をつとめた。

なお、来年は二十回目を迎えるため、記念大会として盛大に行うことになっている。

心を通わせ難問に挑戦

能代市教委主催の風の松原・親子ウォークラリーは、七月十四日市営陸上競技場を発着点に行われた。

ウォークラリーは、親子の体力づくりと親子の交流を深めるのが狙い。ラリーには親子九組と子どもグループ七組が参加。松原内に設けられた六カ所のチェックポイントにある問題を解くというルール。親子やグループが地図を頼りにコースを回り、難問に挑戦していた。

浅田嘉美さん

これらのコース等を上手に組み合わせて、誘客に努力したいところだ。

たとえば、広域交流センターを軸に「木の学校」―「東北電力火力発電所」―「はまなす画廊」―「能代港」―「風の松原」―「能代工業高校バスケットボール栄光の像」―といったコースは、いかがなものだろうか。欲を言えば、八竜海岸から能代海岸までの松林の中に、道路を敷設し、世界一長い「松原街道」を造るのも夢ではないような気がする。先人の遺したものを生かして使うことが、われわれに課せられているような気がしてならない。

（風の松原・市民の会幹事、はまなす画廊実行委員会代表）

もっと熱く若者パワー

市勤労青少年ホーム利用者連絡協議会は、七月二十七、二十八の両日、風の松原・憩いの広場を中心会場に、二十四時間と銘打って「別あつい夏ーNのしろ」のタイトルで繰り広げられた。

このイベントは、青少年ホーム改築十周年を迎えたのを記念し、日ごろ、ホームを利用している若者たちが、企画し、実行した。松岡、島昭男、上山義勝、伊藤松郎、成田三男、清水重雄、秩父金次郎、本間慶二、NTT能代支店、笹井英、島美代子、椅田ミツエ、越後和子、納谷和喜子、渡辺節子、桐越和子、鳥谷寿美子、村木正夫、村木範子、大東施設工業、金子貴久治、願勝寺、ボーイスカウト秋田第6団、藤本博文、渡辺健三、泉幸一、渡辺富男、鈴木一男、安部美恵子、斎藤理知子、杉沢京子、原田一徳、芳賀雅子、小坂京子、井上信英、風間初枝、小川金寿、武田隆男、中野栄子、日本生命能代支店、安江陶成、能代キャッスルホテル、伊藤良弘、浅田嘉美、納谷喜代治

市民の会員

▽会長＝島昭男▽副会長＝田村清、伊藤良弘▽事務局長＝木口辰雄▽会計＝佐藤浩嗣▽監事＝大嶋賢治、納谷喜代治、佐藤浩嗣▽幹事＝浅田嘉美、安部美恵子、伊藤悦郎、木元実、下妻正順、中田雅俊、越後益久、三浦正明、秩父一夫、平川賢悦、金子均

◎広報委員

島昭男会長、田村清、伊藤良弘副会長、木口辰雄事務局長、大嶋賢治監事、佐藤浩嗣会計。

◎市民の会メンバー

宮腰光人、岩谷昭治、佐藤忍、木口辰雄、秩父一夫、越後益久、木元実、松岡秀悦、大嶋賢治、下妻正順、工藤末藏、三浦正明、平川賢悦、佳吉新作、田村清、金子均、中田雅俊、佐藤浩嗣、島昭男、上山義勝、伊藤松郎、成田三男、清水重雄、秩父金次郎、本間慶二、NTT能代支店、笹井英、島美代子、椅田ミツエ、越後和子、納谷和喜子、渡辺節子、桐越和子、鳥谷寿美子、村木正夫、村木範子、願勝寺、ボーイスカウト秋田第6団、藤本博文、渡辺健三、泉幸一、渡辺富男、鈴木一男、安部美恵子、斎藤理知子、杉沢京子、原田一徳、芳賀雅子、小坂京子、井上信英、風間初枝、小川金寿、武田隆男、中野栄子、日本生命能代支店、安江陶成、能代キャッスルホテル、伊藤良弘、浅田嘉美、納谷喜代治

編集後記

○「会報」第2号が8月15日付で発行できた。「先人の貴重な遺産を守ろう」という私達"市民の会"の運動を北羽新報社が全面的にバックアップ、今回から同社で印刷していただいた。

古い言葉だが、"百万の味方"を得た気持ちだ。ただただ感謝するのみ。それにつけても、もっと内容を充実しなくては…と反省しきり。

○："先人と植栽地"の原稿依頼のために、能代高校古内先生を訪ねた際の出来事。古内先生曰く「植栽した先人のうち"山殺人"の異名を持つ林は神社に祀られているが…個人の資産を投じた多くの先人の偉業を能代市民は忘れている…と、厳しい叱責。風の松原を育てる市民の会の運動も、初めから出直しを求められた気持ちがした。初心にかえり、足が地についての運動から再スタート…。さすがに、歴史を究める先生の見識に、汗が吹っ飛ぶ思いをした。（木口）